

2020(令和2)年11月25日 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



**日本の伝統芸能“雅楽”と現代舞踊が出会い、伝統を更新する。
開館5周年を寿ぐ、華やかなコラボレーション！**

ロームシアター京都開館5周年記念事業

**シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4
「雅楽 ～現代舞踊との出会い」**

2021年1月10日(日)

ロームシアター京都 メインホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、長野
電話:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekyoto.jp

■企画趣旨

ロームシアター京都の開館5周年を華やかに彩るため、伝統と革新の混じり合う都市・京都だからこそ可能な舞台を、5周年を迎えるまさにその日にお贈りします。2017年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。第4弾となる2020年度は“雅楽”をテーマに、りゅーとぴあ専属舞踊団 Noism Company Niigata とその芸術監督である金森穰氏をコラボレーターに迎え、新しい“雅楽”のかたちを探る舞台芸術としての演奏会を実施します。それは“雅楽”の新たな魅力を引き出し、京都らしい「温故知新」を体現する舞台となるはずです。前半は伶楽舎および京都の雅楽団体・音輪会による雅楽演奏、後半は Noism0 と伶楽舎によるコラボレーションを行います。



合同リハーサルの様子

■本企画のポイント

① 日本の伝統音楽“雅楽”と現代舞踊の新たな出会い

古典作品はもちろん、現代作品の演奏にも積極的に取り組む雅楽演奏団体・伶楽舎とコラボレーションするのは、新潟を拠点とする日本初の公共劇場専属舞踊団 Noism Company Niigata とその芸術監督である金森穰。いずれも国際的に高く評価され、国内外で活躍する実演団体です。ロームシアター京都という空間で、生の音楽とダンスが共鳴し、新たな表現が生まれる一度きりの瞬間に是非立ち会ってください。

② 武満徹の大作「秋庭歌一具」に取り組む

伶楽舎と Noism0 が挑むのは、日本を代表する作曲家の一人である武満徹作曲の「秋庭歌一具（しゅうていがいちぐ）」(英題：In An Autumn Garden)。第1曲「参音声（まいりおんじょう）」、第2曲「吹渡（ふきわたし）」、第3曲「塩梅（えんばい）」、第4曲「秋庭歌（しゅうていが）」、第5曲「吹渡二段（ふきわたしにだん）」、第6曲「退出音声（まかでおんじょう）」の6曲からなる、約50分の大作で、現代雅楽の古典とも呼ばれています。この「秋庭歌一具」を取り上げる第二部を、金森穰が演出振付を手がける『残影の庭 - Traces Garden』と題した作品として上演します。

③ ロームシアター京都開館5周年を記念し、ユースを招待

2016年1月10日にリニューアルオープンしたロームシアター京都（京都会館）は、2021年1月に開館5周年を迎えます。2021年1月～3月に実施される自主事業を「開館5周年記念事業」と銘打ち、これまでご支援・ご協力いただいた市民の皆様への感謝を込めて、オリジナリティある事業を実施していきます。

本公演は、開館記念日である1月10日に開催するもので、若年層の鑑賞機会の拡大を目指し、ユース（25歳以下）を無料招待します。

■『残影の庭—Traces Garden』に寄せて

雅楽で創作する。人生初めてのことである。

邦楽の元祖である雅楽で創作することとは、邦楽とは何か、この国の伝統とは何かと向き合うことだと考える。それは明治以降、瞬く間に西洋化したこの国の源流を、外（西洋）から眺めることによって捉え直した、偉大なる先人たちと向き合うことでもある。

武満徹さんと雅楽の親和性は、私の拙い教養でも見出せるほどに顕著だと思われる。放たれる音そのものよりも、その残滓、残響、残影にこそ、音楽のなんたるかが宿ることを感得させてくれる音楽。そんな音楽を生み出す武満さんの精神が雅楽の響きに共鳴しなかったはずはない。それを確信させてくれる音楽。それが私にとっての「秋庭歌一具」である。

雅楽というこの国の伝統を、武満徹というこの国の近代（偉大な芸術家）を通して、現代の舞踊家の身体に召喚すること。消えゆく過程で聞こえてくる響き、見えなくなってから浮かび上がる影、その残響／残影に身体を澄ますこと。そうして立ち現れる“美しき”何か。そう、舞踊を創作する。

金森穰

■伶楽舎と Noism0 の合同リハーサルの様子（11 月東京にて）

去る 11 月半ば、東京都内にて、伶楽舎と Noism0 の初顔合わせと合同リハーサルを行いました。「秋庭歌一具」の音楽、そして一つ一つの音と、ダンスの振付・動きを合わせていく緻密な作業によって、『残影の庭』が浮かび上がってきました。



Photo by Yohta Kataoka

■プロフィール

伶楽舎／Reigakusha



雅楽演奏グループ。1985年に芝祐靖が創立。現音楽監督・宮田まゆみ。発足以来、現行の雅楽古典曲だけでなく、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組む。これまでに湯浅譲二、池辺晋一郎、北爪道夫、細川俊夫、猿谷俊郎、伊左治直、山根明季子などに新作を委嘱。また武満徹「秋庭歌一具」は発足当初より重要なレパートリーの一つで、国内外で再演を重ねる。CD「秋庭歌一具」が平成14年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。2002年中島健蔵音楽賞特別賞受賞。「伶楽舎第十三回雅楽演奏会～武満徹 秋庭歌一具」で第16回(2016年度)佐治敬三賞を受賞。2020年ENEOS音楽賞邦楽部門受賞。他に、解説や体験を交えた親しみやすいコンサートや、文化庁「文化芸術による子供の育成事業」の学校公演など、雅楽への理解と普及にも努めている。これまでダンサーとは「秋庭歌一具」(2016年勅使川原三郎)、権代敦彦「彼岸の時間」、猿谷紀郎「綸綬」(2018年森山開次)でコラボレーションを行っている。

金森 穰／Jo Kanamori



演出振付家、舞踊家。りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 舞踊部門芸術監督／Noism芸術監督。17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。ルードラ・ベジャール・ローザンヌ在学中から創作を始め、NDT2在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家、演出振付家として活躍したのち帰国。2003年、初のセルフ・プロデュース公演『no・mad・ic project - 7 fragments in memory』で朝日舞台芸術賞を受賞し、一躍注目を集める。2004年4月、りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督に就任し、劇場専属舞踊団Noismを立ち上げる。海外での豊富な経験を活かし次々に打ち出す作品と革新的な創造性に満ちたカンパニー活動は高い評価を得ており、サイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞、第60回毎日芸術賞ほか受賞歴多数。

ノイズム・カンパニー・ニイガタ／Noism Company Niigata

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する、日本初の公共劇場専属舞踊団。芸術監督は金森穰。プロフェッショナル選抜メンバーによるNoism0(ノイズムゼロ)、プロフェッショナルカンパニーNoism1(ノイズムワン)、研修生カンパニーNoism2(ノイズムツー)の3つの集団があり、2004年の設立以来、国内・世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動している。Noism0は、舞踊に限らず、年齢と経験を積み重ねた芸術家だからこそ生み出せる表現を、新潟から世界に向けて発信していく。Noismの由来は、「no-ism=無主義」。特定の主義を持たず、歴史上蓄積されてきた様々な身体知を用いて、あらゆるismを再検証することで、今この時代に有用な新しい形に置き換え、現代人としての身体表現を後世に伝えていこうとしている。

音輪会／Otonowakai

一千年を越える日本の伝統音楽、『雅楽』を追求する演奏者達が、御遊のふるさと・京都に集い、『音輪会』という雅楽団体を平成8年に発足。以来、宮内庁楽部からの講師陣により、雅楽の精神・響きを厳しく教わり、定期演奏会や京都市と縁あるウクライナ・キエフ姉妹都市提携40周年、クロアチア・ザグレブ姉妹都市提携30周年など国内外の文化交流にてその成果を発揮している。以前は、伶楽舎の創設者でもある芝祐靖が、音楽監督・講師を務めた。また、各地の学校などで雅楽教室を開き、世界に誇れる日本の伝統音楽として積極的に次世代に伝えることも大切な活動としている。

■公演情報

公演名：ロームシアター京都 開館5周年記念事業

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4「雅楽 ～現代舞踊との出会い」

日時：2021年1月10日(日) 14:00開演／13:00開場予定(上演時間：約2時間)

会場：ロームシアター京都 メインホール

【第一部】 開館5周年を寿ぐ雅楽演奏

演奏：伶楽舎、音輪会

芝祐靖 作曲：巾^{きん}褰^{せん}輪^{りん}説^{ぜつ} (伶楽舎)

双^{そう}調^{じょう}音^{おん}取^{とり}、催^{さい}馬^ば楽^{らく}「新^{しん}しき年^{ねん}」(伶楽舎)

声明^{ふげん}「普^ふ賢^{けん}讃^{さん}」、舞^{りょう}楽^{おう}「陵^{りょう}王^{おう}」(音輪会)

【第二部】 『残影の庭 -Traces Garden』

演奏：伶楽舎

演出振付：金森穰

出演：Noism0 (ノイズムゼロ)

武満徹 作曲：秋^{しゅう}庭^{てい}歌^が一^い具^ぐ (伶楽舎 + Noism0)

主催：京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

特別協賛：公益財団法人 稲盛財団 協賛：京都信用金庫

チケット (発売中)

全席指定 S席 5,000円、A席 3,000円、ユース(25歳以下) 無料

◎5周年記念企画として、若年層の鑑賞機会の拡大を目指し、ユース(25歳以下)を招待

★5周年記念セット券対象公演(S席セット券 9,000円) ※限定50セット

※京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」との2公演セット券

■オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)

<https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

■ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL.075-746-3201 (窓口・電話とも 10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため短縮営業する場合あり

■京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231

(窓口・電話とも 10:00～17:00／第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)

ほか、チケットぴあ、イープラスでも取扱いあり

問合せ先：ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

■ロームシアター京都開館 5 周年記念事業について

2021 年 1 月から 3 月までの期間に開催する、ロームシアター京都の自主事業を「開館 5 周年記念事業」として展開します。

ロームシアター京都 開館 5 周年記念事業

対象事業 [1 月 10 日(日)～3 月 28 日(日)]

- ① シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽～現代舞踊との出会い
- ② 京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」
- ③ 第 354 回市民寄席
- ④ レパートリーの創造 松田正隆作・演出『シーサイドタウン』
- ⑤ KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 SPRING
- ⑥ シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.3 人形浄瑠璃 文楽
- ⑦ ハンブルク・バレエ団「ベートーヴェン・プロジェクト」

ロームシアター京都 開館 5 周年記念誌

ロームシアター京都の開館 5 周年を記念し、ロームシアター京都のこれまでとこれからをまとめた冊子を発行します。

撮りおろし建築グラビアや過去公演の記録写真、リニューアルの経緯レポートや 5 年間の各種データ類、参加アーティストからのメッセージなど盛りだくさんのコンテンツを濃縮した、永久保存版の 1 冊です。

発行 | 2021 年 1 月 10 日(予定)

仕様 | ハードカバー 208 ページ

料金 | 2,500 円 + 消費税 (予定)

ロームシアター京都総合案内、京都岡崎 蔦屋書店等で販売予定(料金未定)

ロームシアター京都 開館 5 周年記念ロゴ



SINCE 1960/2016

2021 年 1 月 10 日に迎えるロームシアター京都の開館 5 周年は、京都会館のオープンから 60 周年の期間にもあたります。

リニューアル間もない新しさと同時に歴史も感じられるロームシアター京都という場を体現するため、「5」の数字の背景に「60」を潜ませロゴマークとしてまとめています。